

ほのぼの News Letter



No.11 2018年6月号

一般社団法人 ほのぼの運動協議会



CONTENTS

- | | | | |
|----|---------------------|----|----------------|
| 2 | ほのぼの憲章 | 14 | 忘れな草プロジェクト 郡山編 |
| 3 | 2018年忘れな草プロジェクトに寄せて | 15 | 忘れな草プロジェクト 仙台編 |
| 4 | 忘れな草プロジェクト 手渡し式 | 16 | 参加高校生の感想 |
| 6 | 忘れな草プロジェクト 巢鴨編 | 23 | 忘れな草プロジェクト収支報告 |
| 10 | 忘れな草プロジェクト 代々木公園編 | 24 | お知らせ |

ほのぼの運動憲章

—ほのぼのと夢ある社会を実現する運動—

わたしたちは、ほのぼの運動の活動を通じて日本の各地に夢と希望の灯をともし、ほのぼのとしたあたたかい場づくりを目指します。

一. 日本の食文化・農業への思い

からだにやさしい国産の食材を活かし、手づくり、本物づくりにこだわります。
日本ならではの食を通じ、食べた人の心にほのぼのとしたあたたかみを伝えます。

一. 地球環境への思い

住みやすい地球をつくるために、包装・資材などの資源にこだわります。
周辺の人たちと力を合わせて環境美化を心がけ、清潔・清掃を徹底します。

一. 地域コミュニティへの思い

街のほのぼののスペース、「私の街の私のお店」と思っていただけのような店づくりをします。
地域の人たちが安心して喜び集まるような、手のぬくもりが伝わる場づくりをします。

一. 働く意義への思い

売上の一部を社会に還元します。
それによってスタッフみんながはたらく(傍楽)喜びを感じられる店舗運営をします。

一. “ほのぼの”を創りつづける思い

形のない“ほのぼの”だからこそ、お客さま、コミュニティ、仲間、スタッフ、みんなの
“ほのぼの”を追求しつづけます。
“ほのぼの”運動のさらなる浸透・発展を思い描き、真の豊かさを感じ、分け合います。

一. 未来への思い

未来のために、女性の社会進出・シニア世代の活躍など新しい価値観を創造し、挑戦します。
お客さまとお店との絆、同じ地域という絆、家族の絆、働く仲間という絆、多くの絆のな
かから、新しい社会を創造します。

一. 夢への思い

自分自身の夢を育み、仲間の夢を支え、お客さまの夢を大切に、前進します。
「夢は見るものではなく、叶えるもの、そして更に追い求めるもの」との思いをみんなと共
有し、つねに忘れません。

第5回 忘れな草プロジェクト

■大河原毅理事長のあいさつ

2014年から始まった忘れな草プロジェクトが今回で5回目の開催となりました。

今回は都内では巣鴨2日、代々木公園2日、東北では仙台と郡山で1日ずつということで、開催日もふえ、より多くの方々にご参加いただくことができました。

高校では新たに会津農林高校が参加してくださいました。会津というと、大きな被害はなかったと聞いておりますが、同じ福島ということでもまた違った思いをみなさん抱いてご参加いただいたようです。

参加してくれた高校の先生方は、みなさん「忘れな草プロジェクトに参加する前と参加したあとでは、生徒たちがまったく違う」とおっしゃってくださいます。それまで受身だったり、引っ込み思案だった生徒たちが、積極的に実習に参加したりするようになるそうです。

農業高校には、地域の小中学校の入学・卒業式で使う花や、植樹祭のための樹木など、さまざまな植物の栽培の依頼があるそうです。温室などの設備面や、先生方の労力といった限られた資源の中で、実際にこの忘れな草プロジェクトにはぜひ参加したいとおっしゃっていただけることは、わずかばかりかもしれませんが、人育てという部分にわたしたちも関わらせていただけているのではないかと思います。

それは何も生徒たちだけのことではなく、東京でボランティアスタッフとして参加して下さっている社会人のみなさまにもなんらかの影響があるのではないかと感じております。みなさん一様に「このイベントだけは何とかして参加したい」と言ってくださいます。

また別のところに眼を向けてみますと、新入社員の高校がこの忘れな草プロジェクトに参加している高校で、忘れな草プロジェクトのことを聞いてみたら、「私、参加しました！」と偶然の出会いがあったり、第1回目に参加してくれた先生と生徒が、違う学校の教師と社会人ボランティアとして再び今回参加して下さったりと、出会いとご縁もつなげていってくださっているようです。

寄附している金額からいえばまだまだ小さい活動かもしれませんが、こういった人と人とのつながり、人間の成長といったところでも貢献ができていのだとしたら、こんなにうれしいことはありません。

震災復興というと、もちろん目に見える部分もありますが、やはり目に見えないところにもこうやって関わっていくことが息の長い活動になるのではないかと思います。

事務局では、すでに来年に向けて活動をスタートさせています。今回は、また新たな高校にも参加していただく予定です。後半に掲載している参加してくれた高校生たちのアンケートでは、震災直後に感じていた日常のありがたさを、この活動に参加することによって思い出したという声も多くあります。ましてや、離れた場所にいる我々はおさらでしょう。でも一方で、だからこそ、我々のこの活動はますます意味を持ってくるのではないかと思います。ぜひこれからも気持ちをひとつにして、この活動を続けていきたいと思っております。



第5回 忘れな草プロジェクト

—— 一粒の種から ——

手渡し式

■第5回忘れな草プロジェクト2018——一粒の種から——

2013年に東北を訪れ、東日本大震災の復興のため継続的な支援をしていくことを決め、ほのぼの運動協議会独自の活動をしようということで始まった忘れな草プロジェクト。福島の産業復興を主な目的に、福島の農業高校生にワスレナグサを苗から育ててもらい、それを東京などでチャリティ配布、同時に募金を募るというものです。

5回目となる今回は、都内で4日、東北で2日の合計6日間のイベント開催。過去最多日数の開催のため、そこへ向けて栽培体制も磐城農業高校、福島明成高校に、さらに岩瀬農業高校、会津農林高校の2校が新たに加わり、総数6,000鉢のワスレナグサを用意しました。

実際のイベントに先立って開催した手渡し式では、今年新たに加わった2校へあいさつもかねて訪問いたしました。その様子からお届けいたします。

■手渡し式①——岩瀬農業高校

2018年2月27日、早朝に東京を出発し、東北新幹線新白河駅に集合したほのぼの運動協議会忘れな草プロジェクトの担当メンバー。新白河駅から車でまずは岩瀬農業高校へと向かいました。

岩瀬農業高校、通称岩農は1908年に創立された中通りにある高校です。担当教諭は、2014年に磐城農業高校の教師として、この忘れな草プロジェクトに一番最初に参加表明をしてくださった金成先生。久しぶりの再会ということもあり、ワクワクした気持ちで訪問させていただきました。

今回、ワスレナグサを栽培してくれたのは、ヒューマンサービス科の生徒たち16名。この日はそのうち11日が参加してくれました。また、校長先生、ベテランの草野先生、そして橋本先生、金成先生と、先生方もたいへん力を入れてくださっていることをうかがえる手渡し式となりました。

テレビや新聞などを前に、緊張気味の生徒たちでしたがこのプロジェクトへの思いを聞くと「最初は



小さな苗だったけれど、これだけ大きく育ってくれた。だからもし、町が崩壊してしまったりすべてが壊されてしまっても、またやり直せんだという強い願いと思いを込めて育てました」とたいへん力強い言葉で思いを話してくれました。

最後にマクロバスで温室を見学させていただいた後、巣鴨での再会を約束して岩農での手渡し式を終えました。



■手渡し式②—会津農林高校

続いて、郡山を抜けて磐越道で会津農林高校へ向かいました。途中、猪苗代湖あたりでは一面、白銀の世界。まったく気候が違う土地に来たかのような錯覚に陥りました。会津板下インターで降りると、道路脇には雪が1メートルもの高さまで積み上げられており、雪国感満載でした。

会津農林高校（通称、会農^{かいのう}）も明治40年創立というたいへん歴史のある学校です。約60万平米、東京ドーム約13個分の広大な敷地を有し、今回の勿忘草も初めてであるにもかかわらず3,000鉢もの苗を育てていただきました。



この日、14時からラジオの生中継が入るということで、大急ぎで校長室へ。生徒5人とあいさつをするとすぐにラジオ福島「かつびワイド」の放送が始まりました。パーソナリティーは、昨年郡山での配布にスペシャルゲストとして参加して下さったなすびさんです。事前に打ち合わせをした生徒たちはカーリング女子チーム日本代表の言葉「そだね〜」で元気にごあいさつ。



ラジオ後は、生徒たちから話をうかがう時間となりました。同じ福島とはいえ、会津はどちらかというと避難者を受け入れていた地域です。校長先生いわくとてもテレ屋で恥ずかしがりやの生徒たちですが、このプロジェクトへの思いを聞くと「被害は大きくはなかったけれども、同じ福島として感謝の思いを届けたい」、「この苗を受け取った方が草花であっても命を大切に育ててほしい」ととてもやさしいコメントをしてくれました。



最後にこちらでも温室を見学させていただきました。青々と茂った葉の中に、すでにところどころ花が咲いているものもあり、3月10日のイベントが一層楽しみになりました。

第5回 忘れな草プロジェクト

— 一粒の種から —

3月10日 巢鴨駅前地蔵通り商店街すがもん広場

■会津から初参加

数日前まで雨予報だったこの日、朝方に雨は降っていたもののなんとか止んでくれましたが、曇天の肌寒い一日となりました。会場は昨年と同様巢鴨駅前地蔵通り商店街の入り口付近にある「すがもん広場」です。年配の方が多場所柄、雨は人通りに大きく関係するので、とりあえず一安心。

2018年の初日は、会津農林高校のみなさん。前日に東京入りし、一泊してからの巢鴨です。11時から配布に向け、10時にボランティアスタッフともども集合しました。

ところが、アクシデント発生！ 肝心のワスレナグサが届いていません。あわてて、ヤマト運輸に連絡したところ、人手が足りずに配達が12時になるとのこと。場所を聞くと、道を挟んだすぐ向かい方に営業所があったため、スタッフでとりにいくことにしました。

この日の配布数量は1,200鉢。昨年の800鉢から比べるとかなり量が多いので、配布しきることができるか不安に感じながらも、手早く準備を始めました。

翌日が震災と同じ11日ということもあり、この日はテレビの密着取材が入りました。マイクとカメラに追いかけれながらの作業です。最初は寒さのせいもあってか、多少縮こまっていた生徒たち。お昼近くなるにつれて、太陽も出てきて、次第にのびのびと声が出てくるようになりました。



—「会津農林高校です。私たちが心を込めて育てたワスレナグサを配布しています。ぜひ受け取ってください」—

その呼びかけに応えるように「わたし、会津出身なの」と声をかけてくださる方がぽつぽつといらっしゃいました。「ぜひ、会津出身の人に手渡したい」という生徒の思いが実現しました。

またこの日は、上智大学のサッカー部のみなさんもボランティアに駆けつけてくれました。大きな声で快活に活動をしてくれた後、「これから試合なんです」といって、運動部らしいさわやかさで

颯爽と行ってしまいました。

配布終了予定を15時としていましたが、次から次へと受け取ってくださる方が多く、予定より少し早めに終了。

最後は、恒例のたい焼きで乾杯の「カンタイ!」。おいしさにますますみんなほぐれた笑顔になりました。たい焼きを食べながらの感想会では、高校生たちは「受け取ってもらえなかったらどうしようと心配だったけれど、配り終えることができてよかった」と口々に言います。私たち事務局にとっては例年活動していることであっても、高校生にとっては一生に1度か2度、しかも慣れないところでの活動はいい刺激であるのと同様になかなかのプレッシャーなのかもしれません。

翌日も同じところでの開催のため、荷物を端に寄せて、解散。高校生たちは東京見物をして帰路に着きました。



第5回 忘れな草プロジェクト

— 一粒の種から —

3月11日 巢鴨駅前地蔵通り商店街すがもん広場

■6年前のあの日を心に……岩瀬農業高校

前日にある程度の準備をしてあったため、この日はスムーズに準備に入ることができました。

担当高校は、岩瀬農業高校。高校としては初めてですが、担当の金成先生は第一回目にも参加していただいているため、安心です。ヒューマンサービス科の先生と引率の先生が2名、生徒は8名とたいへんにぎやかな一行でした。

また、3月11日当日ということもあり、ボランティアスタッフも多く集まりました。前日に引き続き、天気は曇天、肌寒い中で、緊張した様子の高校生と対照的に、社会人ボランティアは元気いっぱいの様子でした。前年も同じ日、同じ場所で開催したからか、この日も準備をしはじめるや否や、次々とみなさんが興味をもって集まってきてくださいました。

この日は、えがお体操®の室屋佳子先生もいらしてくださったため、まずはみんなで体操。首や肩や顔の筋肉を動かして、体も心もほぐしました。

先生と生徒の紹介と意気込み、そしてボランティアスタッフのあいさつをして、いざスタート。この日も1,200鉢を用意して、前日の反省も踏まえ机を前に出して配布しました。

震災の当日ということもあって、新聞やテレビなどでも報道されていたのかもしれませんが、11時前にスタートするとしばらくして、「これ、高校生に食べてもらって」と地蔵通り商店街の中で売ってい





る有名な塩大福の差し入れをいただきました。それを皮切りに、次から次へと、「みなさんで召し上がって」、「がんばってね。これちょっとだけ……」と差し入れを持ってきてくださいます。一度、ワスレナグサを受け取って、募金もしてくださった後に、また戻ってきて差し入れをくださる方もいらっしゃいました。巢鴨のみなさんからもメッセージつきで差し入れをいただいたり。高校生はもちろん、社会人ボランティアもその気持ちに思わず目をうるませていました。

また、「去年から1年、この日のために貯めていたんだ」と言って、1円玉がいっぱい詰めてある2リットルのペットボトル2本と、銭形平次のように5円玉を紐にくぐらせて持ってきてくださった男性もいらっしゃいました。

高校生たちは「東京の人がこんなに親切だとは思わなかった」、「東京の人たちと触れ合うのは楽しい」と口々に言いながら、実に明るい表情で活動をしていました。

みなさんから応援の声などもかけていただき、会話をしているうちに、備していたワスレナグサもなくなってしまい、予定より40分ほど早く終了となりました。

この日もたい焼きで「カンタイ!」をしながら、感想を伝え合いました。どの高校生も「楽しい」「またやりたい」と、本当に楽しそうに話してくれました。最後に全員で黙祷をし、あの日に思いをはせ、解散いたしました。

あっという間にこの日準



第5回 忘れな草プロジェクト

—— 一粒の種から ——

3月17日 代々木公園アイラブ 아일랜드フェスティバル

■刺激の多い一日——福島明成高校

3月17日、18日は、代々木公園で行われるアイラブ 아일랜드・フェスティバル内にブースを出しての配布です。在日 아일랜드商工会のご厚意でブースを出させていただき、2日目にはステージ上で 아일랜드大使にワスレナグサを差し上げるというセレモニーもさせていただきます。

このとも準備段階では雨。天気が心配されましたが、当日は青空の広がる、すがすがしい朝を迎えることができました。

アイランドフェスティバル初日の配布担当は福島明成高校のみなさんで14名で来てくれました。この日は、途中で代々木公園と原宿に分かれて配布するため、大人数での参加がたいへん助かります。引率の斉藤誠先生は、第1回目のときから参加してくださっているので安心です(最初は磐城農業高校)。9時にボランティアはじめ高校生たちが到着したらあいさつをすまし、すぐに準備に取り掛かりました。

2日間にわたって開催されるアイランドフェスティバルですが、去年は土曜日は人出があまり多くない印象でした。が、今年は晴天のおかげもあってか、たいへんなにぎわいになりました。

お昼前には2グループに分かれ、一方は原宿へと向かいました。とはいうものの、原宿はふつうにショッピングなどで訪れている人が多く、配布するにはなかなか難しいところですが、この日も案の定、人通りは多いものの、関心を持ってくださる方が少なく生徒たちは心が折れそうに……。

そんなとき、人気ユーチューバー（主に You Tube 上で独自に制作した動画を継続的に公開する人のこと）の動画によく出てくる、ちょっとしたアイドルが通りかかりました。その瞬間、生徒たちは大騒ぎ。私たち社会人ボランティアはよく知らず、まったくわからなかったのですが、ちょっとした人だかりになりました。彼女たちの背中を押して、そのアイドルにワスレナグサを手渡したところ、「お花、ありがとう。すごくうれしい」と喜んでくれいっしょに写真撮影。一気に生徒たちのテンションもあがり、





声に張りが出てきました。

その後、代々木公園のチームと交代したものの、代々木公園ではワスレナグサが足りなくなりそうな勢いになってきたため、原宿での配布は13時すぎに終了しました。

一方の代々木公園では、あっという間に残りわずかになっていました。16時までの予定が、15時には配布し終えてしまい、終わるとみんな大盛り上がりになりました。

その後、カンタイと感想会。この日はやはり出だしが難しかったのか、生徒たちは一様に「最初はなかなか声を出せなかったけれど、最後は声を出せて、配り終えられてよかった」という感想を述べてくれました。ただ、なかには「いろいろとボランティアをやってきたけれど、きょうが一番楽しかった」と言ってくれる子もあり、それには協議会スタッフもうれしくなりました。最後、明成高校の生徒代表から、お礼の言葉を理事長がいただき、解散となりました。

早く終わってしまったため、片付けに入ったところでNHKラジオの取材を受けました。数年前より毎年追いかけてくださるアナウンサーが今年も応援に駆けつけましたとおっしゃっていただきました。こうして数年にわたり、取材していただけるのは非常にありがたく、継続している意義をこういったところからでも感じることができました。



第5回 忘れな草プロジェクト

—— 一粒の種から ——

3月18日 代々木公園 アイラブアイルランドフェスティバル

■仲良く、笑顔で活動を——磐城農業高校

代々木公園での2日目もよいお天気に恵まれました。配布担当は磐城農業高校のみなさん。到着するとすぐあいさつの後、えがお体操®をすることに。着いたばかりで緊張しているは、恥ずかしいはで、かえってガチガチの表情になっている生徒たちでしたが、ほかの人たちの様子に少しずつほぐれていきました。

この日、一番最初に声をかけてくれたのは、前日の夕方にNHKラジオを聴いていらしてくださったとのこと。こうして気にかけていらしてくださる方がいらっしゃることに改めてありがたさを感じました。また、「去年も来たんだけど、遅い時間でなくなっちゃったから、今年は朝一番で寄った」という方もいらっしゃいました。三年続けてお会いする方もおり、少しずつ絆が強くなっていくことが感じられました。

最初は固まっていた生徒たちも、いざはじまると「どんな声をかけたらいいの？」と話し合い、迷いながらも声を出しはじめました。

交代で休憩も取りながら、午後のセレモニーに備えます。例年、ステージの上から募金を呼びかけるときには配布できるワスレナグサがなくなってしまうため、今年は少し途中からセーブをしながら配布をしました。



途中、アンアイルランド大使閣下が通りかかれたためごあいさつをし、いっしょに写真を撮らせていただきました。

そして、いざセレモニーへ。舞台袖で誰が大使と大臣にワスレナグサを手渡すか、どうやって動いて、そのあいだ他の生徒はどうするかといったことを話しあいました。いざ、舞台へ出ると緊張してちょっとぎこちなさもありましたが、生徒は立派に大役を果たしました。



大使、大臣、ゲストとしていらしていたミスワールドのアイルランド代表と日本代表もいっしょに記念撮影。さらに、ミスワールドの美しさに感動した生徒たちは、いっしょに写真を撮りたいとおおはしゃぎ。舞台を降りてきたミスワール

下にワスレナグサを手渡し、いっしょに写真を撮らせてもらいました（このとき、まわりに人だかりができて、まるで芸能人の記者会見のように一斉にフラッシュがたかかれていました！）。ラストパートで最後のワスレナグサを配りおえ、終了。

この日も最後は「カンタイ！」をして感想会でした。笑顔のたい焼きを「カワイイ！」「おいしい！」とパクパク食べながら、「規模が大きくてびっくりしたけど、とても楽しかった」、「笑顔をつくるのが苦手だから、いまはすごく顔が痛いです」とみんな満面の笑顔でした。

結果的には予定より1時間以上も早く終わり、その分高校生は東京見物へ出かけていきました。帰りの新幹線から引率の先生が送ってくれたメールには「生徒たちは大興奮で、ずっと起きてしゃべっています！」と最後までその楽しそうな様子が伝わってきました。2018年の東京でのイベントはこの日で終了となり、最後はボランティアスタッフも名残惜しげな様子で、来年の再会を思いながら解散となりました。



第5回 忘れな草プロジェクト

—— 一粒の種から ——

4月8日 郡山 (ショッピングモールフェスタ)

■2校合同イベント——磐城農業高校、岩瀬農業高校

東北での初日は、郡山にあるショッピングモールフェスタです。昨年も同じ会場で開催し、開始30分ほどで配布を終えてしまったところ。今年も、ラジオでの生中継公開オファーに応じて、なすびさんが応援に来てくださいました。

郡山駅から車で20分ほどのところにあるフェスタは、福島県内最大のショッピングモールです。その中央にイベント広場があり、そこでオープニングのあいさつの後、配布をします。この日の配布には、磐城農業高校と岩瀬農業高校。東京に続いて2度目、昨年が続いて3度目という生徒もおり、みんな積極的に準備に取り掛かりました。

また、この日は第1回目の忘れな草プロジェクトに磐城農業高校の生徒として参加した小野さんも応援に駆けつけてくれました。そのとき磐農の担当だった金成先生と卒業以来の再会となりました。この忘れな草プロジェクトのイベントでこういった場ができたこと、とてもうれしく感じられました。

大きな会議室で準備を終えて、いざステージへ。東北担当の株式会社シャポンドウの石本さんの開始のごあいさつ、続いてなすびさんからひと言をいただいて配布を始めました。

東京との人の多さ、ペースの違いに戸惑いつつも買い物前より帰るときのほうが荷物にならないだろうなどと工夫しながら元気よく声をかけ、あっというまに準備した500鉢が終了。1時間ちょっとでした。その後、みんななすびさんといっしょに記念撮影。高校生たちは大喜びです。その後、再び会議室に戻り、ケンタッキーフライドチキンをいただきながら感想会を行いました（東北にはほのぼのお好み鯛焼き本舗の店舗がないため）。

昨年の11月から約5ヶ月、一生懸命取り組んできた思いがあふれてきたのか、さみしさに涙ぐむ生徒やこれから後輩に託す強い思いを語ってくれる生徒もいました。またいつか再会する機会があることを願いながら、終了となりました。



第5回 忘れな草プロジェクト

—— 一粒の種から ——

4月15日 仙台(ケンタッキーフライドチキン仙台駅前店、パピナ名掛丁交差点付近)

■県境を越えて——会津農林高校

今年のグランドフィナーレは仙台。大雨の東京を出て仙台に着くころには太陽が出ていました。配布担当として来てくれた会津農林高校の生徒たちはみんな「会津よりすごくあたたかい！」と大喜びです。

また昨年に引き続き、宮城県東松島市の人気者「おのくん」とおのくんのおかあさんの武田さんも応援に来てくれました。このおのくんにも生徒たちは大興奮です。

会農は来年にうまく引き継ぐためと、巣鴨で配布した3年生2名に初参加の2年生6人で来てくれました。上級生が下級生にやり方を教えながら、うまく流れ作業で準備をしてくれたおかげで、あっという間に準備完了。配布を開始しました。

大都市らしく、大きなスーツケースを抱えた旅行客やスーツ姿でビシッときめたビジネスマンも多く、「そういう人たちは、荷物になってかえって困らせてしまうから」と言って、「それよりも子どもや年配の方のほうが喜んでくれる」と、狙いを定めて(?)積極的に声をかけていく高校生たち。みんな、喜んでいただける方法をいっしょけんめい考えながら取り組んでいました。

また、おのくんの人気は今年も絶大。「あっ、おのくんだ!」と言って子どもたちが駆け寄ってきます。ビルの管理の方も、「こっちのほうがよく人通りがあるよ。看板をいま貸してあげるから」といって、声をかけてくださり、協力してくださいます。

一方で通りすがりで募金をしてくれた親子は、小さな女の子がママに「ねえ、ママ。これはいい募金だね」と言いながら、うれしそうにワスレナグサを抱えていきました。

この日も開始1時間半で配布終了。おのくんと写真撮影をした後は、ケンタッキーフライドチキン仙台駅前店さまの店内でチキンでカンタイ、そして感想会をしました。上級生たちは来年を託す後輩にエールを送り、後輩たちは来年も取り組む決意を語ってくれました。来年へ向けて、また楽しみがふえた最後の仙台でした。



第5回 忘れな草プロジェクト

— 一粒の種から —

高校からの声

会津農林高校

忘れな草プロジェクトに参加し、東日本大震災のことや福島はいまがんばっていることを忘れないでくださいという気持ちでこのプロジェクトに参加し、東京の巣鴨で募金を行った。募金活動をしているとき、始めのほうはぜんぜん声を出せなくて、いっしょに参加していた人たちが声をだしてがんばっている姿を見て自分もがんばらないかと思いつつ、途中からでした。がしっかりと声を出すことができました。

募金をしてくれた人たちが、がんばってねなどの声をかけてくれてとてもうれしかったです。このプロジェクトに参加してほんとうによかったです。来年参加する人たちにもこの気持ちを忘れないでほしいです。

会津農林高校 伊藤優太

(巣鴨) 忘れな草のプロジェクトに初めて参加して不安でしたが、プロジェクトに参加していた大学生やプロジェクトの関係者の方々がとても優しく接して頂いたおかげで不安はなくなりました。東京の巣鴨という場所でやりました。風がとても強くて寒かったですが、募金していただいた方々が多くいてありがたかったです。ワスレナグサの無料配布でも「きれいだね」などの嬉しい言葉をかけてもらいました。東北大震災のことを忘れないで欲しいと改めて重いました。

(仙台) 2回目の参加でした。天候にもめぐまれて良かったです。若い方々にもたくさん渡せたので良かったです。しかし、ワスレナグサは渡せたものの、募金をしてくださる人が少なく残念でしたが、がんばってねや遠いところからありがとうなどの声をかけてもらってうれしかったです。「おのくん」にも会えて良かったです。良い経験をさせて頂きました。

会津農林高校 鶴賀恋

今回、忘れな草プロジェクトに2回参加させてもらい、貴重な体験をすることができました。1回目、2回目と目標を達成することができてよかったです。

東京お方に東北を忘れないでという気持ちもありましたが、それよりも福島県の人々に私たちの活動を知ってもらって笑顔になってほしいという気持ちでいっぱいでした。配布する中で、「ありがとう」や「がんばって」などの声を聞くことができ、ああ、自分は携われてよかった、今まで育ててきてよかったと深く感じました。また笑顔で受け取ってくれる人が多く私はとても幸せでした。

今回はボランティアの方も多く、その方々といっしょに活動できてよかったです。ほのぼの運動の皆様へ会えたこと、受け取ってくれた方に会えたことすべてに感謝しています。今後も後輩が参加するので、私たちの分までがんばってほしいです。本当にありがとうございました。

会津農林高校 小野芽生

私は、この忘れな草プロジェクトに当日は参加できなかったのですが、参加した友達にどんな体験をしたか聞くと、すごく貴重な体験をさせてもらったと聞きました。

受け取って下さる方も、笑顔で対応してくださる方もいて、とても楽しくやりがいがあるプロジェクトだったと言っていました。

参加できなくて、すごく残念でしたが、ワスレナグサを栽培し、多くの人に喜んでいただきうれしかったです。このプロジェクトを次の後輩もすばらしいプロジェクトにしてほしいと思います。

会津農林高校 本間萌

私は、この活動を通して、震災を経験したからこそ意識しなければならない、忘れてはいけないことについて思い出しました。それは、「当たり前の日々が、何より幸せなこと」だということです。

震災直後、私は些細な日常に大きな幸せを感じていました。震災前の日常が戻りつつある今だからこそ、当時の気持ちを大切にすべきだと思いました。震災を風化させないためにも、忘れな草プロジェクトは素晴らしい活動ですし、少しでも携われたことを光栄に思います。

岩瀬農業高校 加藤恵史

私は、授業や放課後を通し、忘れな草を栽培したり、メッセージカードの作成を行いました。活動に参加しながら、震災当時の恐ろしさや、震災後にたくさんの方々から支援をいただいたことを思い出していました。

他の高校生と協力しながら、多くの皆さんに感謝の気持ちを伝えることができたのは、とても良い経験だったと思います。本当にありがとうございました。

岩瀬農業高校 兼子裕悟

最初はとても小さかった苗が、大きく成長してくれ、東京や郡山でたくさんの方にお渡しできて、本当に嬉しかったです。私は部活動の大会のため、東京や郡山で配布できなかったのですが、心の中で感謝の気持ちは忘れずにいました。

辛く悲しいこともあるけれど、協力し、助け合いながら、少しずつ解決していく世の中になってほしいです。

岩瀬農業高校 眞船ラベン

仲間と共に、忘れな草の栽培を行いました。小さかった苗も、大きくなり、3月に配布する時期に蕾をつけているものもありました。

この活動を通して、多くの方に出会い、視野を広げることができました。今後も感謝の気持ちを持って生活していきたいです。

岩瀬農業高校 坪井蒼詞

忘れな草プロジェクトに参加し、改めて人のあたたかさに触れることができました。私たちは、震災後、たくさんの支援をいただきました。今後も、感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいです。

岩瀬農業高校 湯田音々羽

感謝の気持ちを込めて、忘れな草の栽培やメッセージカードの作成を行いました。この忘れな草プロジェクトに関わることができ、感謝しています。ありがとうございました。

岩瀬農業高校 本間鈴

今回、忘れな草プロジェクトへの参加の話がうかがったとき、これはぜひ引き受けなければという思いでスタートしたことを覚えています。昨年度は本校の新しい学科であるヒューマンサービス科が設置されて2年目でした。植物をとおしてお年寄りや子供、障がい者や被災者を元気にすることも科の目標です。生徒たちはこの目標にそって日々学習に励んでいます。人を思いやる心を育み、ボランティア活動を実践しよう、福祉の現場や地域社会の活動に積極的参加しようと呼びかけています。

この活動に参加させていただき、生徒たちはいろいろなことを体験させてもらい、少しずつではありますが成長したように感じています。まず、忘れな草の栽培に熱心に取り組んでくれました。福島を忘れないでほしい、被災者を元気にするという思いが感じられました。そして、巣鴨での配布、募金活動にも笑顔で大きな声で積極的に参加してくれました。多くの方から励ましの言葉もいただきました。この経験はきっと生徒たちの貴重な体験になるとともに成長の糧になることと思います。

社団法人ほのぼの運動協議会の皆様をはじめ多くのボランティアスタッフの皆様にご感謝申し上げます。ありがとうございました。

岩瀬農業高校 教諭 草野忠次

今回、本校は初めて忘れな草プロジェクトに参加させていただきました。生徒たちは、震災後にいただいた支援を忘れず、取り組んでいました。感謝の気持ちを持ち、忘れな草を1鉢1鉢大切に育てたり、自分たちの気持ち

を書いたメッセージカードの作成も行いました。

東日本大震災のあった3月11日は巣鴨、4月8日には郡山市のショッピングモールで忘れな草を配布させていただきました。生徒たちは初めは緊張していましたが、一般社団法人ほのぼの運動協議会の皆様をはじめ、多くのボランティアスタッフの皆様、タレントのなすびさんに支えられながら、楽しく笑顔で活動を行っていました。

活動を通して、生徒たちは、多くの方に声を掛けていただき、人の温かさを感じることができていたようです。将来に対して、前向きな考えを持つことができるようになったことも印象的でした。生徒たちは、忘れな草のように少しずつ成長していたように思います。

忘れな草プロジェクトに参加させていただき、本当にありがとうございました。

岩瀬農業高校 教諭 金成理恵子

磐城農業高校

忘れな草プロジェクトに参加してみて、初めてだったので緊張しました。

なかなか体験できない事なので、とてもいい経験になりました。

磐城農業高校 小田友香

今回初めてイベントに参加して、最初は声を出すことがなかなか出来なくて立っているだけになっていくけど、最後の方は自分から声を出しているいろんな人に渡すことができているいい経験になったと思いました。

磐城農業高校 馬上紗妃

今回は、郡山に続いて2回目の参加でしたがちゃんと配れるか行く前から緊張していました。また、ボランティアの方々が大変優しく接してくれたので安心して行動することができました。

磐城農業高校 室原由佳

初めて参加するイベントだったので最初は不安と緊張がありましたが、少しずつ慣れて色々な人と接することができたのでよかったと思います。

磐城農業高校 上野代替乃

初めての参加でとても不安で戸惑ったことも結構あったけど優しい方々ばかりで安心したしとても楽しかったです。忘れな草を沢山の人に受け取ってもらえて嬉しかったです。

磐城農業高校 後藤佑菜

今回で忘れな草のイベントは2回目で少しどんなことをやるかなどわかってはいたけれど、規模が違いすぎて戸惑いました。しかしとても貴重な体験ができたと思います。

磐城農業高校 岡崎萌香

今回のイベントで初めてチャリティ活動を行いました。私はあまり大きな声を出して通行人の人に配布などを行ったことがないのでとてもいい経験になりました。今回はありがとうございました！

磐城農業高校 及川美空

日頃よりご支援いただき誠にありがとうございます。震災より7年が経過し、復旧復興が進んでいるところですが、福島県の農業を取り巻く環境は未だに風評被害に遭い、震災前の水準に戻っていない現状です。

そのような中、昨年のプロジェクトで表参道で忘れな草を配布した方（板橋区在住）から、4月にきれいな花が咲きましたと写真付きでお手紙をいただきました。また、「若い皆さんのパワーで福島から日本をかくよくしてください」と激励をいただきました。

ご期待に応えられるよう生徒と共に福島農業をもっと活性化させていきたいと強く思いました。今後ともよろしく願い申し上げます。

福島県立磐城農業高等学校長 渡辺譲治

昨年の4月、菅野先生から引き継がれた一番最初の仕事が郡山イオンイベント会場での忘れな草プロジェクトでした。赴任したばかりだったので、当日生徒と一緒に忘れな草配布するだけで、なんだかあっという間に終わってしまった印象でした。今年度、忘れな草の苗が到着してから配布に至るまで、沢山の方々

のご協力のもとこの活動が成り立っていることを実感し、生徒はもちろんですが私自身も貴重な経験と成長をさせてもらえたと思えました。今回参加した子供たちがこの経験をどのように生かしていくか楽しみに期待しています。

磐城農業高校 常勤講師 柴田大河

福島明成高校

今回、忘れな草プロジェクトという草花専攻班でのイベントに初めて参加しました。草花班で東京にイベントに行く事が初めてだったので、東京に行ける事がとても楽しみで、イベントも初めてだったのでとても楽しみでいっぱいでした。私は、ボランティアの方やほのぼの運動さん、えらい方々などと、明成の生徒達で育てた忘れな草を東京の人に配布し、沢山の人達が受け取ってくれて、募金してくれる方もいて、頑張っていて、応援してるよと声を掛けてくれる方もいてとても良い気持ちになりました。忘れな草を配布して、東北の震災を忘れないで、覚えていてほしいなと思えました。私は、忘れな草プロジェクトというものは、素晴らしいものだなと思い感動しました。このような貴重な体験ができ、とても嬉しく思います。本当にありがとうございました。これからも草花班で、福島に花を沢山咲かせられる様に日々努力していきたいと思えます。ほのぼのさん！頑張ります！

福島明成高校 赤坂綺星

今回のプロジェクトで一番良かったと思うことは、たくさんの方が苦しみ悲しんだ出来事があったということを確認でき、そして忘れないようにしようとすることができたことです。メッセージカードを書いている時、震災のあった頃のことを思い出しました。電気も水も、食べ物もない中、東北の方々は自分のできることを見つけ、希望を捨てずにここまで頑張ってきました。七年前に比べれば少しずつではありますが笑顔が戻ってきたように感じます。私たちが笑顔で忘れな草を配ることによって、東京の方たちにたくさんの温かい言葉をいただきました。今でも考えてくれている人がいるんだと知り、とても嬉しかったです。心の底から、このプロジェクトに参加できて良かったと思えます。

これからも、復興に向けて、自分ができることがあ

れば、進んでチャレンジしていきたいです。

今回は、本当にありがとうございました。

福島明成高校 阿部月乃

三月十七日に草花班で東京に行き「忘れな草プロジェクト」に参加しました。東京に行くまでは一緒に活動する人たちはどんな人なのか想像できなくて不安でした。花をもらってくれる人もそんなにいないんじゃないかと思ってました。だけど現地のボランティアの人も大学生もとてもおもしろくていい人達ばかりで募金活動も昼休けいも自由行動も楽しかったです。高校でこのプロジェクトに参加できてよかったです。

福島明成高校 大杉怜奈

私は、明成高校に入学し初めて「忘れな草プロジェクト」という活動に参加しました。東京で行うということでも楽しみにしていました。最初は、どんな活動内容なのか分からず緊張しながらも参加していましたが、一緒にプロジェクトに参加した大学生の方や役員の方々が自然に話しかけてくれたので、緊張もほぐれ楽しく活動することができました。

この活動を行って、東日本大震災を思い出し、震災で亡くなった方や、今も見つからないままにいる方がたくさんいると思います。今、自分達が何をすべきなのかとても深く考えさせられる活動になりました。そして、この活動を通して、たくさんの人達とコミュニケーションが取れ、とても良い経験になりました。これからも震災のことを忘れずに生きていきたいと思えます。

福島明成高校 今野陽依

忘れな草を育てている時や学校から東京に送る準備をしている時から“忘れな草プロジェクト”に参加出来ることを楽しみにしていました。実際に参加してみて、最初は声を掛けるのも出来なくて、勇気を出して声を掛けたら無視されて、時間内に渡りきれぬか不安でした。やっていくうちに慣れてきて、外国の方にも英語で話しかけることができました。私は英語を話すことが好きなので、とても良い機会になりました。外国の方にも東日本大震災のことを知ってもらいたいし、忘れてほしくないと思えました。もちろん日本の

方には一番忘れてほしくないです。今回の活動で少しでも多くの人の記憶の中に「東北で大きな震災があったよね。」などと思い出してもらえれば良いのかなと思います。何より悲しいことは忘れられてしまうことです。これからは私たちが次の世代へとつないでいかなくてひけないと強く感じました。参加して本当に良かったです。

福島明成高校 小林彩花



初めは、あのたくさんの花を自分たちの力で配りきれのかどうか不安だったけれど、きちんと最後まで配りきることができたのでとても嬉しかったです。東京の方々に私たちの活動をしてもらうことができたのでとても良かったです。貴重な経験になりとても充実した1日を過ごすことができました。

福島明成高校 三村菜歩



今回の忘れな草プロジェクトは、とても良く楽しい出来事になりました。忘れな草を配りながら募金をしていましたが、最初は慣れていなくて、募金があまり集まらなくて苦労しましたが、慣れてきて地域の人達と話したり、触れ合ったりして来て地域の人達の優しさや温もりを知ることが出来ました。忘れな草プロジェクトに参加している人達も優しく対応してくれてとてもうれしかったです。自由時間もあり、自由時間の間に行きたいなと思っていた所にも行く事も出来ました。普段このような活動をした事がなかったので、忘れな草プロジェクトで、いろんなことを学べて体験をしました。今後、またこのような活動があったら参加してみたいです。

この活動を今後に生かしたいと思います。本当にありがとうございました。

福島明成高校 齋藤優佳



初めて、東京でボランティア活動をしていろいろ大変でした。最初は、福島に比べてとても人が多くてびっくりしたし圧倒されてしまいました。けど、ずっと声とか出しているうちになれてきてうまくボランティア活動することができました。このような経験できて良かったです。ありがとうございました。

福島明成高校 安田桃菜



初めて福島県以外の草花の活動してみてもすごく大変だったけど楽しかったです。初めて募金活動した場所が東京だったので最初は緊張して声がぜんぜんでませんでした。けど、なれてきてすごく楽しかったです。一緒に募金活動できてよかったです。ありがとうございました。

福島明成高校 小林佑妃



先輩方が続けてきたことにはとても意味があるんだなと思いました。私たちに起こったことをたくさんの人に知ってもらい、忘れないでいてもらうのは大切です。当日、私はなかなか声をかけることができませんでした。ですが、無事に全部配り終えることができてよかったと思っています。声をかけている途中で「毎年もらっているよ。」と言ってくれる方もいてとてもうれしかったです。この活動はとても良い活動だと思います。だから、しっかりと後輩達に先輩の私達がつなげてきたことを伝えていきたいです。

福島明成高校 宍戸宥姫



初めて福島以外で草花の配布をしてみいて、あらためて自分から積極的に行くことの重要さを学びました。

配布を始めたころは、緊張と恥ずかしさで自分から声をかけられず、ただ立っているような状態でした。そのためなかなか足を止めてくれる人がいませんでした。しかし、少しずつ声を出すようになってからは立ち止って募金をしてくれたり、忘れな草をもらっていってくれたりする人が増えて嬉しかったです。なかには、忘れませんと言ってくれた人もいて、来てよかったなと思いました。

この忘れな草プロジェクトに参加して、老若男女問わずさまざまな人が募金をしてくれて新鮮で嬉しかったです。今回で学んだことをいろいろな場面でいかしていきたいです。

福島明成高校 長根春菜



私は「忘れな草プロジェクト」に参加してとても良い経験をさせていただいたなと思いました。初めての参加で、最初は緊張して大きな声を出せなかったり、なかなか笑顔になれませんでした。でも時間が経つに

つれて笑顔で大きな声を出して募金活動をすることができました。募金活動中、多くの方々に募金に協力していただいたり、「頑張って」などと声をかけていただいたりとてもうれしかったです。一緒に活動したスタッフの方々もみなさん優しく接していただき、充実した活動をすることができました。楽しかったです。また、このような機会があれば、ぜひ参加したいと思います。

福島明成高校 鳥谷美幸



今回、初めて「忘れな草プロジェクト」に参加して、感じたことは、二つあります。

一つ目は、七年経った今でも震災を忘れないでいて

くれる人が多いということです。中には毎年来てる人もいて、とても驚いたことをはっきり覚えています。配っている時に、「頑張ってね」や「大変だったね」などの温かい言葉をかけていただいて、心が温かくなりました。

二つ目は、忘れな草を全て配れて安心したことです。最初は、声も出せず、受け取ってもらえるかとても不安でしたが、次第に声も出てきて、きちんと配ることができました。最後の1つを配り終えた後に頂いたいやきは、とてもおいしかったです。

今回、このようなイベントに参加して、福島県についても良く知ってもらえたと思います。もし、このようなイベントがまた開催されたら、ぜひ参加したいです。

福島明成高校 吉田美翔

第5回 忘れな草プロジェクト 2018 一粒の種から一収支報告

収入金額		被災地の活動支援金および寄附金	
募金、寄附等	1,534,646	ワスレナグサ栽培費	481,267
ほのぼの運動	993,772	旅費・交通費	985,878
合計	2,528,418	寄附金(4高校各100,000円ずつ)	400,000
		被災地支援費合計	1,867,145
		その他の経費	
		包装資材、販促物作成費	604,881
		その他雑費	56,392
		合計	661,273
支出金額合計(被災地の活動支援金、寄附金、その他の経費)		2,528,418	
差引(募金、寄附等から被災地支援金、その他忘れな草プロジェクトの経費を引いた差額はほのぼの運動から支出)		0	

【特別協力】

株式会社ジェーシー・コムサ
 株式会社ポラマーマ
 株式会社シャボンウ
 東京山王ロータリークラブ
 有限会社メディア・サーカス
 谷静子さま、いこまゆきこお料理教室さま、
 片山さま、天明さま
 募金いただいたすべてのみなさま

【スペシャルサンクス】

アイルランド大使館、在日アイルランド商工会議所
 巢鴨地藏通り商店街振興組合
 原宿表参道櫓会
 株式会社京王プレッソイン
 農事法人組合チバナーセリー
 NPO法人日本園芸療法研修会

【後援】

東京都倫理法人会社会貢献委員会

第7期 ほのぼの運動協議会 事業年間スケジュール (案)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
店舗の地域活動	随時受付・実行											
物資支援	随時受付・実行											
寄附事業			学校寄附	寄附先決定	発表	継続寄附						ips 寄附
忘れな草プロジェクト	仙台郡山	交渉	交渉				栽培開始	千葉ナーセリー	出荷	調整	手渡し式	巣鴨 9,10 代々木 16,17
域学交流イベント			12日	視察	準備	14日～17日		16日				
JCコムサ主催チャリティゴルフ							25日					
フォーラム					20日							
理事会動			理事会総会		理事会		上期決算				予算案	
WEB 広報	毎月更新											
機関紙			発行						発行			
店舗サポート	随時											
経理	基本的に事務局が経理業務を行い、毎月10日までに新宿総合会計事務所に提出し、20日迄に会計士と打ち合わせを実行											

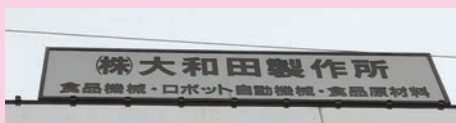
ほのぼのフォーラム日程決定

2018年のほのぼのフォーラムは、8月20日(月)に開催いたします。会場は国際文化会館で、時間は12時から15時です。たくさんの方のご参加をお待ちしております!!

【編集後記】

先日、定期検診にきているガス屋さん「鉄板からガス漏れしている」という恐ろしい事態を知らされ、部品を購入するため急遽、南千住の大和田製作所に行ってきました。

大和田製作所さんは私たちの鉄板だけではなく、機械そのものから企画開発しているんです。ご存知でしたか？なので新しく開発された鯛焼き機もあって、合わせないで片面だけ焼けるものや、初めてお見掛けする型など所狭しと並んでいました。この道80年、食品機械だけではなくロボットも作っているんです。凄い技術を持つてる知る人ぞ知る工場なのでしょうね。1階では私たちの鉄板の汚れを取る作業が行われ、テフロン加工がされる所。そして2階は機械とメンテナンス。この日も新しい鉄板で鯛焼きを練習する中国人の姿も見受けられました。日本に修行にきているようです。いよいよ鯛焼きも海外進出か!? その後、与野店の鉄板はちゃんと直りましたのでご安心ください。



事務局長 作間由美子

ほのぼの News Letter No.11

発行日：2018年6月30日

発行：一般社団法人ほのぼの運動協議会

編集制作：ほのぼの運動協議会 事務局

〒150-0022

東京都渋谷区恵比寿南 1-15-1

A-PLACE 恵比寿南 2 F

TEL:03-5722-1070

FAX:03-5722-7396

問い合わせ：jimukyoku@honobono-undo.org